

世界最高峰のデータ分析競技会 「KDD CUP 2022」で入賞

2022年8月17日に、クロステック開発部の落合 桂一、サービスイノベーション部の福島 悠介、劉冠吟、若元 亮樹、内村 優太がデータ分析競技会であるKDD CUP 2022にて世界第9位に入賞しました。

KDD CUPは国際計算機学会（ACM：Association for Computing Machinery）が主催するデータマイニング関連の国際会議KDD（Knowledge Discovery and Data Mining）で開かれるデータ分析競技会で、1997年、まだビッグデータやデータサイエンティストという言葉が無い時代から続く世界最高峰かつ最も歴史のあるデータ分析競技会です。

2022年の競技会は4つの部門に分かれ、今回第9位に入賞した部門は、オンラインショップの商品検索で、ユーザが入力した検索キーワードに対して検索結果の商品が代替品として使えるかどうかを分類する精度を競うものでした。日本語、英語、スペイン語の3言語を対象とし、商品名、商品の説明文、ブランド名など商品に関する複数の文を利用し分類を行う点が特徴でした。

落合らのチームは自然言語処理で広く使われてい

るTransformerという機械学習モデルを使い、日本語、英語、スペイン語の言語別に学習したモデルと3言語全て利用して学習したモデルを組み合わせることで複数言語に対応するAIを開発しました。さらに、商品分類の偏りや検索文と商品名の一致率など、データ分析から得た知見を取り入れることで、高い分類精度を達成しました。

ドコモは2016年からKDD CUPへの参加を続け、今回は2019年の優勝、2020年の3部門入賞に続く2年ぶり4回目の入賞となります。ドコモでは多数のデータサイエンティストを擁し、日頃からパートナー企業との協業の中で、AI・ビッグデータを有効活用し、さまざまな課題の解決に取り組んできたことが、今回の受賞に繋がりました。本大会で評価された世界最高レベルのAI・ビッグデータ分析技術を活用し、AI・ビッグデータ活用ビジネスの拡大とともに社会課題解決の取組みを促進していきます。

本誌に掲載されている社名、製品およびソフトウェア、サービスなどの名称は、各社の商標または登録商標。